

毎日新聞社主催 私学公開座談会 第27回

<多様・未知> とつながるチカラを育てる私学の教育が開催されました

12月3日(日) 学習院大学(目白キャンパス)にて、**第27回 毎日新聞社主催・日能研協賛「私学公開座談会」**が開催されました。このイベントは、私学の先生方をお招きし、毎年その時々に適したテーマを紐解きながら、「私学にこそある価値は何か」についてその核心に迫っていくイベントです。今年度は「<多様・未知> とつながるチカラを育てる私学の教育」がテーマです。

今年度最後の開催となった今回、ご登壇の学校・先生は、

開成中学校・高等学校 校長 柳沢幸雄先生、武蔵高等学校中学校 校長 梶取弘昌先生でした。

男子御三家のうちの2校の校長先生のご登壇ということもあり、事前申し込みは早々に満席締め切り。

大会場を埋め尽くした多くの保護者と子ども達の熱気に包まれる中、座談会は進んでいきました。

第1部では、武蔵・梶取先生、開成・柳沢先生より各校のプレゼンテーションが行われました。そこでは、先生ご自身の考えや思い、その背景となる様々な情報や具体例を交えながら、各校が大切にしている教育の本質が熱く語られました。

武蔵の梶取先生は、建学の精神「武蔵の三理想」を、ご自身の言葉で『世界』とつながる、多様性を育む』と読み替え、そのためには「今、何をすればよいのか? じっくり自ら調べ、自ら考えよう」、「人と触れあおう」、「当たり前を疑おう」、「無駄は無駄ではない」と子ども達に優しく語りかけました。

開成の柳沢先生は、日本の人口動態(人口減少問題)や環境問題、世界・社会情勢の劇的な変化など、様々な視点とデータを挙げながら、未知に向けて子ども達がどのように学んでいくべきかについて語られました。先生がキーワードとして強調されたのは、やはり“多様性! 予測不可能なこれからの時代の中で、“自由”“自主性・自律性”そして、校名の由来でもある“開物成務”の精神が、多様な社会・世界の中で活躍する開成生を育てるチカラになっていることが伝わってきました。

第2部では、桜美林大学の田中義郎先生をコーディネーターに迎え、3名の先生方による座談会が行われました。お二人とも母校の校長先生になられていることから、ご自身の人生に影響を与えた母校の学びとはどんなことか? 現在の母校の教育にもつながっている要素はどんなことか? そして、未来に向けて両校はどんな教育を実践していくのか? などの問いが投げ掛けられました。両校の先生のお応えの中で特に共通していたのは、両校とも生徒が自ら考え、自ら行動すること、先生からの一方的な押し付けではなく、お互い(仲間や先輩・後輩との)の学び合いを大切にしていることでした。そのために、生徒にあれこれと手出し、口出しをしない、頭ごなしに規制しない、生徒自らが多様を受け入れ、無駄と思える時間を無駄と思わず楽しむための場作りをすることが学校・先生の役割だとおっしゃっていました。この話は、日常的な親と子どもの関わり方の話にも発展し、思わず顔を見合わせる子どもと保護者の姿があちらこちらに見受けられました。あこがれの開成、武蔵に入学したいという多くの子ども・保護者に向けて、両校の先生からは、「中学や大学に合格するためだけに、一時的に“特急列車”に乗る方法はあるかもしれない。でもそれを人生の目標にしてはいけない、自分自身でじっくり考える姿勢と時間が大切なのです。」というメッセージが贈られ、座談会は大きな拍手の中終了しました。

当日の座談会記事は、12月下旬に毎日新聞本誌、毎日小学生新聞にも詳細が掲載される予定です。

<本件に関するお問合せ先>

日能研本部 TEL : 045-473-2311 / FAX : 045-475-0544 / e-mail : pr@nichinoken.co.jp

